

戦争と人権

富岡東高等学校羽ノ浦校 三年

佐藤 小夏 さとう こなつ

（敬称略）

皆さんは人権侵害という言葉聞いて何を思い浮かべましたか。複数の友人に聞いてみればいじめだという答えが多くありました。確かにいじめは非人道的な行動で絶対にあってはならないことだと思います。ですが私が入権侵害と聞いて一番最初に思い浮かべるのは戦争です。なぜなら人権とは人間の生存にて、欠くことのできない権利及び自由であり、戦争とは権利や自由が当たり前のように無かったことにされ生存ですらも脅かされてしまう対義語のような存在だと考えたからです。

戦争が始まれば何が起ると思いますか。私達の国は八十年前に戦争をしないと日本国憲法で決めました。八十年前ではこんな平和な日本でも戦争が起こっていました。この八〇年で戦争の事を語り続ける人が少なくなり、私は戦争の恐しさが風化してきたように感じます。治安維持法により戦争に反対意見を持つ人は言論の自由を奪われ非国民と呼ばれ現在大事だと言われているプライバシーまでも友達や近所同士で監視しあう関係となっていたのです。戦争ではさらに敵地の住民虐殺・生体実験・性的虐待・強制連行・強制労働・財産の収奪・文化の抹殺等重大な人権侵害にあたる事が多く存在しているのです。戦争に勝つただそれだけの為に、今後その兵器で亡くなる人のことを考えることもせずに作られた化学兵器は数えきれない程あります。皆さんは人間魚雷とは何か知っていますか。確実に敵に当てるためだけに爆弾が乗った潜水艇に人が乗り、乗っている人もろとも敵艦に体当たりする特攻兵器なのです。生還できる可能性は無かったのです。その人間魚雷に乗り亡くなってしまうた人の出撃前の音声データには、「僕はもつともつといつまでもみんなと一緒に楽しく暮らしたいんだ。愉快に勉強し、みんなにうんとご恩返しをしなければならんだ。しかし僕はこんなにも幸福な家族の一員である前に日本人であることを忘れてはならないと思うんだ。元気で征きます。」と残されていました。彼はまだ二十一歳でした。日本人であることを忘れてはならないというこの一文が当時の日本では当たり前であり、日本人であることが命を投げ出す理由となっていたことが信じられません。今だからこそ命はかけがえのない大切な物であると胸を張って言うことができます。きつと当時の彼らも命を軽くは見えていなかったと思います。大事な命だけでも家族や友人

に生きていて欲しかったのではないのでしょうか。日本が勝てば幸せになるとただ一心に信じ続けていたのではないのでしょうか。彼の死は無駄なんかでは決してありません。戦争の恐ろしさ、そして命の大切さを今に伝えてくれているからです。彼の死が無駄にしない為にも今を生きる私達がしっかりと伝えていく必要があるのではないのでしょうか。戦争では彼のような人が、数えることができない程いました。今までの世界中の戦争による死者は約九千万人にも昇ります。これは今までの死者数であり今も尚世界各国で自国や家族、友人の為にと死者の数は増え続けています。その死を決して無駄だとは言えませんが本当に国同士での争いを命を奪い合う行為にしたいのでしょうか。国の為だとはいえ、たった一つしかない命を落としたいと思う人はいるのでしょうか。

今私にできることは、戦争がどのような物かをしっかりと学び今まで戦争で亡くなった方の死を無駄にしないことだと思います。誰もが命はかけがえのない大切な物だと胸張って言えるような世界が続いて欲しいと心から思いました。